

第5章 用語解説

	用語	解説
あ行	アセットマネジメント	持続可能な水道事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動のこと。
か行	簡易水道事業	一般の需要に応じて水を供給する事業で、給水人口 101 人以上 5,000 人以下のもの。
	官民連携	公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図る手法のこと。
	管路更新率	管路の延長に対する更新された管路延長の割合を示すもので、信頼性確保のための管路更新の執行度合いを表す指標。 (更新された管路延長/前年度における管路延長) ×100
	基幹管路	導水管、送水管及び配水本管(給水分岐のないもの)のこと。
	基幹管路耐震管率	基幹管路の延長に対する耐震管の延長の割合を示すもので、地震災害に対する基幹管路の安全性、信頼性を表す指標。 (基幹管路のうち耐震管延長/基幹管路延長) ×100
	企業債残高対給水収益比率	給水収益に対する企業債残高の割合を示すもので、企業債残高が規模及び経営に及ぼす影響を表す指標。 (企業債残高/給水収益) ×100
	技術職員率	全職員数に対する技術職員の割合を示すもので、技術面での維持管理体制を表す指標。 (技術職員数/全職員数) ×100
	給水区域	水道事業体が厚生労働大臣の認可を受け、一般の需要に応じて給水を行う区域であり、水道事業体は、この区域内において給水義務がある。
	給水原価	有収水量 1 m ³ 当たり、どれだけの費用がかかっているか表す指標。
	給水収益	水道事業における収益のうち、最も重要な位置を占める収益であり、通常、水道料金として収入となるもの。
	給水人口	給水区域内に居住し、水道の給水を受けている人口のこと。
	給水収益に対する職員給与費の割合	給水収益に対する職員給与費の割合を示すもので、水道事業の収益性を表す指標。 (職員給与費/給水収益) ×100
	供給単価	有収水量 1 m ³ 当たり、どれだけの収益を得ているかを表す指標。
	繰入金比率(収益的収支)	収益的収入に対する損益勘定繰入金の依存度を示しており、事業の経営状況を表す指標。 (損益勘定繰入金/収益的収入) ×100
	経常収支比率	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているか示す指標。 (営業収益+営業外収益) / (営業費用+営業外費用) ×100
	広域連携	施設の共有化や事務の共同化などにより、複数の事業体が相互に協力し、能力を補い合い、更には高めていく手法。
コーホート要因法	ある基準年次の男女年齢階級別人口を出発点とし、コーホート(同時出生集団、本指針では男女 5 歳階級別)ごとに仮定された生残率、子ども女性比、0~4 歳性比及び移動率を適用して将来人口を推計する方法。	
さ行	最大稼働率	施設能力に対する 1 日最大配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す指標。 (1 日最大配水量/施設能力) ×100
	受水費	水道用水供給事業者から、水道用水の供給ごとに要する費用。

	用語	解説
	水道統計	水道事業の効率的な運営を図るうえで必要な業務、施設、水質などの状況を、厚生労働省が都道府県や市町村、水道事業体の協力を得て調査し、事業の傾向、性質などを計数的、統一的に明らかにし、整理したもの。
	水道用水供給事業	水道事業体に対して、水道用水を供給する事業のこと。
	石綿セメント管	石綿繊維（アスベスト）、セメント、珪砂を水で練り混ぜて製造した管路で、アスベストセメント管、石綿管とも呼ばれる。強度面や耐衝撃性で劣るといった短所があり、人体内へのアスベスト吸入による健康への影響が問題となっていることから、製造が中止された。
	専用水道	水道事業の用に供する水道以外の水道であって、101人以上の者に対して居住に必要な水を供給するもの又は飲用等人の生活の用に供する水量が日量20m ³ を超えるもの。
	施設利用率	施設能力に対する1日平均配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す指標。 $(1日平均配水量 / 施設能力) \times 100$
	上水道事業	給水人口5,001人以上の一般の需要に応じて水を供給する事業。
	職員一人当たり有収水量	一年間における損益勘定職員一人当たりの有収水量を示すもので、水道サービスの効率性を表す指標。 $年間総有収水量 / 損益勘定所属職員数$
は行	配水池	給水区域の需要量に応じて適切な配水を行うために、浄水を一時貯える池のこと。
	配水池耐震化率	全配水池容量に対する耐震対策の施された配水池の容量割合を示すもので、地震災害に対する配水池の信頼性、安全性を表す指標。 $(耐震対策の施された配水池有効水量 / 配水池有効水量) \times 100$
	表流水	一般に河川水、湖沼水のこと。
	負荷率	一日最大給水量に対する一日平均給水量の割合を表す指標。
	普及率	現状における給水人口と行政区域内人口の割合のこと。
	布設替え	古い管路を撤去し、新しい管路を布設すること。
	法定耐用年数	固定資産が本来の用途に使用できると推定される年数のことで、地方公営企業法において種類・構造・用途ごとに定められている。
	法定耐用年数超過管路率	管路の延長に対する法定耐用年数を超過している管路の割合を示すもので、管路の老朽化度、更新の取り組み状況を表す指標。 $(法定耐用年数を超過している管路延長 / 管路延長) \times 100$
ま行	水安全計画	食品衛生管理手法であるHACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point)の考え方を取り入れ、水源から蛇口までのあらゆる過程において、水道水の水質に悪影響を及ぼす可能性のある全ての要因(危害)を分析し、管理対応する方法を予め計画として定めるリスクマネジメント手法。
や行	有効水量	メーターで軽量された水量、もしくは需要者に到達したものと認められる水量並びに事業量水量のこと。
	有効率	水道施設及び給水装置を通して給水される水量が有効に使用されているかどうかを示す指標。 $(年間有効率 / 年間給水量) \times 100$
	有収水量	料金徴収の対象となった水量のこと。
	有収率	年間配水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているのかを表す指標。 $(年間有収水量 / 年間給水量) \times 100$
ら行	流動比率	短期的な債務に対する支払い能力を表す指標。 $(流動資産 / 流動負債) \times 100$
	流動資産	現金や、原則として1年以内に現金化される債権、貯蔵品などのこと。

	用語	解説
	流動負債	事業の通常取引において1年以内に償還しなければならない短期の債務のこと。
	料金回収率	給水原価に対する供給単価の割合を示すもので、給水に係る費用が水道料金によってどの程度賄えているかを表した指標。 (供給単価/給水原価) × 100
	累積欠損金比率	営業活動により生じた欠損金(赤字)の累積額の状況を示したもので、経営の健全性を表す指標。 (累積欠損金 / (営業収益 - 受託工事収益)) × 100